令和６年度スマート農業実地勉強会
― タマネギ栽培のスマート化　―
開催要領

１．趣旨

近年、全国の野菜販売農家数は5年間で約3割減少するなど、労働力不足から野菜生産の維持が懸念され、生産性の向上は喫緊の課題になっています。主要野菜の一つであるタマネギも生産者の減少などにより、生産の維持が困難になりつつあり、自動化技術の導入による省力化や、栽培管理のシステム化による収量・品質の向上が求められています。そのようなタマネギ生産の課題に対応したスマート農業実地勉強会を、全国有数の産地である兵庫県の淡路島において開催します。タマネギ栽培のスマート化に取り組まれたコンソーシアムより、その効果と課題についてご報告いただくとともに、現場で自動農薬散布ロボットの実演を見学し、タマネギ栽培のスマート化について議論します。

２．主催

農研機構西日本農業研究センター

３．開催日時

令和 7 年 2 月 14 日（金） 13:10～17:00

４．開催場所・方法

室内検討会　洲本商工会議所 2 階多目的ホール・会議室 B・C（兵庫県洲本市本町 4-5-3）
開催方法：会場参加と WEB 配信のハイブリット方式
現地見学会　木村ライスセンター圃場　※雨天の場合は中止。

５．対象範囲

農業者、農業系大学・高校等の学生、都道府県・市町村など行政・普及指導機関、研究機関、関連企業、スマート農業実証プロジェクトコンソーシアム、農林水産省、農研機構など

６．内容

１）　開会挨拶　13：10-13：15
農研機構西日本農業研究センター 所長　橘　雅明

２）スマート農業実証プロジェクトの事例報告　13：15-15：05

（１）淡路島型スマート防除体系の導入・実証について　13：15-13：40
株式会社レグミン経理財務部リーダー　西川 耕平

（２）“有機×スマート”労働力不足を解消するスマートオーガニック・　13：40-14：05

スマートファームの実証について
株式会社パソナ農援隊地方創生事業部担当部長　紙上　忠之

（３）東北地域のタマネギ生産の安定化と出荷連携体制の構築に向けた実証について　14:05-14:30
農研機構東北農業研究センター畑作園芸研究領域野菜新作型グループ長
室　崇人

（４）総合討論　14:35-15:05
司会　農研機構野菜花き研究部門露地生産システム研究領域長　佐藤　文生

マイクロバスで移動

３）現地見学会　15:40-16:30
自動農薬散布ロボット実演
株式会社農社代表取締役　奥野　竜平
木村ライスセンター代表　木村　凛太郎

４）閉会　16:30

洲本商工会議所に戻り解散　17:00

７．参加費：無料

８．定員

室内検討会　現地参加　定員 60 名（定員になり次第締切）
WEB 参加　定員 200 名程度
現地見学会　定員 50 名（定員になり次第締切）

９．申込方法

令和7年 1 月 28 日（火）までに、下記 URL からお申し込みいただくか、参加申込書（別紙1）に所要事項を記載して、以下の 10. 申込先に記載してあるメールアドレスまたは FAX にてお申し込みください。
https://business.form-mailer.jp/fms/e792e50c265224

10. 申込先・問い合わせ先

農研機構西日本農業研究センター研究推進部　田村泰章
電子メール: smart-hukyu@ml.affrc.go.jp
電話　084-923-4116　FAX 084-923-5215